発行所▶公益財団法人埼玉県老人クラブ連合会　〒330-0075　さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65　TEL048-822-7330　FAX048-822-7377　発行人▶高橋　義一
印　刷▶関東図書株式会社

平成30年
1月1日
特別号
No.5
埼玉県老人クラブ連合会機関誌

彩愛クラブ埼玉

SAIAI CLUB SAITAMA

彩愛クラブ埼玉は、彩の国埼玉を愛する仲間が集い、生きがいづくり・健康づくり・仲間づくり・地域づくりを実践して、彩り豊かな、いきいきとしたよろこびの輪を広げています。

団結力と笑顔で仲間づくりを！

埼玉県老人クラブ連合会会長　高橋　義一

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、日頃から活発な老人クラブ活動をしていただき、誠にありがたく御礼申し上げます。

老人クラブのもっともすぐれている点は、地域に根ざし、仲間作りで団結できるということであります。支え合いながら、楽しく活動し、地域での様々な問題についても、必ず解決していく力があります。

クラブのない地域に新設し、解散になったクラブを復活させる事は、地域社会を明るくし、安全安心な社会を築いていけると確信しています。

今回５回目の発行となる特別号は「新設・復活クラブから学ぶ会員増強」をテーマに、新設・復活した８クラブが各地域の団体とのすばらしい連携で、人材が続々と集まり、新しいクラブの誕生の例や地域ぐるみの活動で見事復活をとげた例を代表として掲載させていただきました。大変残念な事ですが、他にも、すばらしい事例がありましたが、紙面の制約により、掲載されないクラブが数多くあります。皆様の日ごろの活動に対しまして感謝の思いでいっぱいです。このすばらしい活動を、ぜひ参考にしてください。

また、この記事をふまえて、会員増強運動の提案を、高齢者向け雑誌「エール」編集長の植松紀子先生にお願いをしたところ、７つのすばらしい提案をいただきました。お忙しい中、今後の老人クラブへの期待を込めて考えていただいた事に深く感謝申し上げます。

超高齢社会を迎えた埼玉県において、老人クラブは活力ある地域づくりの担い手として、欠く事のできない存在となっています。クラブ活動はそれ自体が介護予防につながっており、地域に開かれた活動として、誇りと自信を持って前進すべきであると強く思っております。

今後も、新しい仲間づくりのため、クラブ活動のすばらしさを更に訴え、皆様の団結の力と笑顔を胸に刻み、新たな決意で前進して参ります。

皆様の会の発展とご健康・ご長寿を心より御祈念申し上げます。

10年先を見通した埼玉づくり

埼玉県知事　上田　清司

老人クラブ会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、花咲徳栄高校が夏の甲子園で県勢初の優勝を成し遂げました。

本県も元気です。人口増加率は全国３位、平成15年からの名目 GDP の増加額は全国２位、平成17年から10年間の企業本社入超数は全国１位です。来年のラグビーワールドカップ大会､2020年の東京オリンピック・パラリンピックもこの勢いで盛り上げていきます。

さて、今年は平成30年という節目の年です。過去を振り返り、先の10年を考えてみたいと思います。

我が国の生産年齢人口は減り続け10年後はピーク時である平成７年の約８割になることから、今後、社会における一人一人の価値は高まっていきます。また、10年前のリーマンショックに端を発する貧困や格差は重大な社会問題となっています。

本県においては、「埼玉版ウーマノミクス」の効果もあり、働きたい女性を支える環境が整ってきました。さらに、活躍し続けたいシニアの後押しや、健康寿命を延ばす「健康長寿埼玉モデル」の展開により、誰もが活躍できる埼玉を目指します。

また、これからは人工知能やロボットなどの普及が加速度的に進みます。そこで今後10年を考えると、まずは新しい成長産業を創り、稼ぐ力を取り戻すことが重要です。成果が出てきた「先端産業創造プロジェクト」でさらに実用化や製品化を進め、先端産業企業の集積につなげていきます。

そして10年後には今の半分の仕事がなくなるという見方もあることを考えると、子供たちの創造力を伸ばす教育も重要です。貧困や格差解消の課題に取り組んだ「生活保護世帯の子どもの学習支援」は埼玉から全国に広がり、「児童養護施設退所者のアフターケア」は進学、就職などで大きな成果を上げています。

これからも足元から10年先までをにらんだ本質的な取組を追求し、埼玉の未来を創っていきたいと思います。

今年も県政への御理解と御協力をお願い申し上げます。

『新地域支援事業』参画への推進

新設・復活クラブから学ぶ 会員増強の提案

～７つの提案で組織の活性化～

植松 紀子プロフィール

昭和22年生まれ。本籍・福島県会津美里町。千葉県立東高校、竹早学園教員養成所卒後、市川学園幼稚園勤務。昭和53年より福祉出版㈱入社。高齢者向け月刊誌「百歳万歳」に関わり、昭和56年編集長に就任。昭和61年㈱百歳万歳社設立。代表取締役編集長となる。平成25年㈱百歳万歳社退任、35年間の「百歳万歳」編集人生に終止符を打つ。

シニアライフジャーナリストとして活動するかたわら、平成25年９月シニアにエールを送る雑誌「エール」を創刊。編集長に就任、現在に至る。

ブラジルや国内各地のシニア団体、老人クラブ、大学、企業で講演、シルバーファッションショーなどのイベント企画運営。平成25年から千葉県老人クラブ連合会の評議員・広報委員長に就任。平成23年10月～平成25年３月までミニFMラジオ局「植松紀子の百歳万歳」パーソナリティーを務める。

昭和62年、日本文芸振興会・編集者賞受賞。

現在全国で老人クラブ会員数・単位クラブ数は減少傾向にあります。どこの地域も会員増強に力を注ぎ、がんばっています。

老人クラブに加入する人が少なくなったことが最大の原因ですが、それとともに単位クラブの解散も会員減少の大きな原因となっています。１つのクラブが消滅すると30人～50人がいっぺんに減ってしまう。加入促進運動をして、１年に２人、３人と増やしても隣のクラブがなくなってしまった…。そんな現象が起きている現状です。

新しく開発された住宅地域やマンションでは老人クラブ自体が無いというところも多く、そこに新しく単位クラブを作ること、さらに解散してしまったクラブを復活させるにはどうしたらいいのか、各地の市町村老人クラブ連合会が頭を悩ませています。

しかし、この難問を様々な工夫によって成功させている事例があります。

《新設クラブ紹介》

岩浪信章会長

平成29年４月に発足したばかりの春日部市の新設クラブ・薄谷いきいきクラブの事例をご紹介しましょう。

薄谷地区は周りの自治会とのつながりが強い地区であったことが幸いしています。薄谷いきいきクラブ岩浪信章会長（71歳）は隣の武里中野いきいきクラブ（三ノ輪健三会長）からグラウンド・ゴルフに誘われて、一緒にプレーをしていました。岩浪会長だけでなく、数人の仲間も一緒でした。こうして親しくなるうちに、三ノ輪会長から薄谷地区にも老人クラブを作るようにすすめられるようになりました。

植松紀子先生

薄谷いきいきクラブ 岩浪信章会長

県老連 落合一弘局長

県老連 玉水きみ子理事

薄谷いきいきクラブ

どこから手を付けていいか分からない岩浪さんに色々アドバイスをしてくれた春日部市いきいきクラブ連合会成田準之助会長。様々な悩みを相談して解決策を教えてくれた青田英之武里地区連会長。春日部市いきいきクラブ連合会玉水きみ子副会長も規約づくりなどで協力をしてくれました。なお、県老連玉水きみ子理事として、今回は取材を担当してくれました。まず岩浪さんは自分もメンバーであった「防犯推進委員」の方々に声をかけました。その仲間は岩浪さんが声をかけると喜んで加入してくれました。その10名が一つの核になり、もう一つ地域で活動していた婦人会にも声をかけ、20人増えました。さらに知り合いにも声をかけ、４月の発足時には38人。半年経った８月には42人になりました。

「三ノ輪さんが熱心に勧めてくれたこと、市老連のアドバイスがあったこと、さらに防犯推進委員会の仲間がいたことが、新設クラブを作る大きな力になりました」と岩浪会長は語りました。

《復活クラブ紹介》

もう一つ一旦解散したクラブを１年で再結成にいたったのは川越市蔵根っ子クラブ（本木春男会長・77歳）。

川越市も全国の例にもれることなく、各地域で単位クラブの解散が進んでいました。蔵根っ子クラブが所属する古谷地区には３つのクラブがありました。２つのクラブが役員の高齢化で継続不能になり、市老連を脱退せざるをえませんでした。そんな雰囲気が連鎖反応のように蔵根っ子クラブにも伝わり、蔵根っ子クラブも解散ムードになったのが平成26年。当時副会長であった本木さ

本木春男会長

んは「これではだめだ！なんとか活動を再開しなければ」と川越市老人クラブ連合会原会長のご指導のもと、旧蔵根っ子クラブの役員と検討を重ね、１年後再スタートを切ることが出来たのです。

本木会長はまず会員の増強が第一と考え、そのために①若年層に向き合う姿勢をつくる　②新しく魅力あるクラブをつくる　③趣味の共通した人たちを集める　④常に仲間意識を持つということを共通認識として役員会で諮りました。

本木さんも好きなゴルフの仲間を誘おうと元自治会長さんと共にゴルフ愛好家を集めて蔵根っ子クラブにゴルフクラブを作りました。部員数20名。その中で新規加入者は10名です。さらに、にこにこ体操クラブを立ち上げました。部員数18名。そのうち新規加入者は10名です。

蔵根っ子クラブ

「現在会員数は94名ですが、90歳以上の会員は会費免除。その他の会員は年間500円の会費です。ワンコインで加入できれば気軽に入れますね。もちろん、様々な活動の時にはその都度会費を集めます」と本木会長。ゴルフクラブ・にこにこ体操クラブのほか、グラウンド・ゴルフクラブ、フラダンス（ケエ・レファ）のサークルも加わり活動は盛んになっています。

蔵根っ子クラブの活性化の素晴らしさを取材を担当した埼玉県老人クラブ連合会広報委員であり、川越市老人クラブ連合会小林松十郎社会奉仕部長は「本木会長の積極性には頭が下がります。ほかの地域にも本木さんのように頑張って解散したクラブをもう一度再生してもらいたいですね」と語っています。

ここにご紹介した２つのクラブは特別でしょうか。いいえ、どの地域でもできることなのです。加入促進を成功させるためにはどうしたらよいか…。以下に７つの提案をさせていただきます。

会員増強の成功への７つの提案

①新規クラブを立ち上げる

新しく住宅地として開発された地域、団地やマンションが立ち並ぶ地域には老人クラブができにくい要素がいろいろあります。隣家ですら何をしている人なのか分からない状態です。しかし、そういう地域も高齢化が進んでいます。特に災害時などお互いに助け合う必要も出てきます。周りの地区の老人クラブでは未組織の地域の高齢の方々をまず地域の活動（たとえば自治会、町内会のイベント）などに誘うところから始めたらいいのではないでしょうか。老人クラブの存在を知っていただくことが第１歩でしょう。

②解散クラブを復活させる

単位クラブは横のつながりが希薄だと言われています。「隣のクラブは何しているクラブ？」といったところでしょう。気が付いてみればお隣のクラブが解散していたということも。解散してしまったクラブを復活させるには大変な努力が必要です。まずは「解散させない」。病気と同じように予防が大事です。地区老連や市町老連で情報を共有し、単位クラブ同士の連携ができれば解散を防ぐことも、復活にも大きな力になると思います。

③単位老人クラブだけで問題を抱えない

単位クラブの高齢化、役員のなり手がいないということで解散する例が非常に多いことはご存知でしょう。しかし、会員の方たちは老人クラブ活動を楽しみにしているし、地域の仲間を孤立させないために老人クラブの仲間の支えが必要です。老人クラブに問題が起きた時に自治会、町内会と話し合ったり、市町村老連に相談することがとても大事になってくると思います。

④地域との連携

老人クラブ加入促進運動で１人の会員が１年に１人を誘えば会員数は倍になるという考え方は以前からありました。誘っても入らない人や会員が亡くなったり、病気で長期入院の方もいます。それをプラスマイナスしても1.5倍にはなる。「そんなうまくはいかないよ」という声が聞こえてきそうです。そう簡単にはできないから減少傾向に歯止めがかからないのです。その原因の１つに老人クラブの孤立が考えられます。地域の様々な団体、サークルと連携して活動し、「老人クラブって楽しそうだな」ということが地域の皆さんに伝わることが加入促進に大きくつながります。

⑤老人クラブは楽しい！

ある単位クラブの会長がクラブの会員数とサークルの数との関係を調べました。サークル数６以下は平均76名。サークル数７以上は平均96名、サークル数10以上は平均126名。その会長はサークルを少しずつ増やしました。会員が増えていくと、不思議なことに病気になる方も少なくなりました。楽しいと活動が活発になったので当然かもしれません。仲間との交流はもちろんですが、老人クラブの活動で生きがいを見つけることもできます。そのクラブは加入促進に力をいれなくても会員がますます増えていったのです。

⑥新地域支援事業の活用

埼玉県老人クラブ連合会では「新地域支援事業」の参画を強く勧めています。高齢化が進み、多くの地域で介護を必要とする人が増えてきました。介護保険制度の改正に伴い、介護が必要な人たちもなるべく長く住み慣れた地域で過ごせるよう、地域の団体や住民が支え合うことを求めています。そんな「新地域支援事業」はこれまで各地の老人クラブが行ってきた友愛活動や健康づくりで生活支援や介護予防活動などと重なる部分が非常に多いと思います。この機会に地域包括支援センターなど市町村の介護にかかわる所やコミュニティーセンター・公民館の活動などとつながり、福祉のまちづくりの一翼を担えれば、老人クラブの存在を地域が認識し、今後の老人クラブ活性化に大いなる意味を持つと思います。

⑦これまでの老人クラブの常識にとらわれない

「老人クラブ組織はこうあるべき」という常識にとらわれてはいませんか？　60代の方たちが加入しやすい老人クラブにならなければ、さらに減少していくでしょう。それには活動内容はもちろん大事ですが、入りやすさという点で現在の組織に柔軟さが求められています。

⑴会員はその地域に住む方以外でも受け入れる。また、市老連を横断させた単位クラブも出来ています。つまり、市内に住む方ならその単位クラブにどこからでも入れます。隣の市に住む方も受け入れている地域もあります。「自治会から補助金をもらっているから他の地域の方は入れられない」そうでしょうか？　建前はそうであっても自治会との話し合いや他地区から来た方は会費を少し多く頂くなどの工夫をしている例もあります。

⑵組織自体も変化しています。これまでのように単位クラブの中にサークルをつくるのではなく、サークルが集まって一つのクラブを組織化する。サークルのリーダーが老人クラブの役員として活動しています。単位クラブも１人が１役ということで、全員が何らかの役を担い、参画意識、仲間意識を高めているところもあります。そうすることで役員の交代もスムーズにいき、役員の高齢化による活動の不活発さや会員減少も防いでいる例もあります。

⑶広報についても変化が起きています。これまで広報と言えば広報紙の発行や地域の新聞などに活動を載せてもらうなどの方法が多かったのですが、今はインターネットの時代。単位クラブの活動をインターネットに載せて会員獲得をはかっているクラブも多くなってきました。

活動内容だけでなく、組織自体も広報の仕方もこれまでの常識には無かったことがどんどん出てきているのです。

新設・復活クラブで会員増強した単位クラブの事例

薄谷（すすきや）いきいきクラブ（春日部市）

三世代交流の夏祭り

薄谷いきいきクラブは、平成29年４月１日に発足した。会長は岩浪信章氏（71歳）、会員は当初は38名、現在は42名に増えているとのこと。

●三世代交流の夏祭り

７月30日(日)、自治会館とその広場で、自治会と薄谷いきいきクラブが共催の三世代交流の夏祭りが行われていた。自治会が模擬店を出店して焼きそば等を会員たちに振舞い、子供神輿が広場に戻ると夏祭りは最高潮に達した。薄谷いきいきクラブの会員は、輪投げ、ヨーヨー釣り、かき氷、ビンゴゲームと西瓜割りを受け持ち、会場を盛り上げていた。

●クラブ発足の経緯

武里中野いきいきクラブからグラウンド・ゴルフに誘われ、薄谷地域から６名で参加された由。プレーを通じて武里中野いきいきクラブの活動を知り、老人クラブを立ち上げることを勧められた。薄谷自治会より助成金３万円を得て、平成29年４月１日、薄谷いきいきクラブを発足させた。

発足の核になったのは、婦人部と防犯推進委員であった。話し合いを進め、気心の知れた人達を誘い、その後は口伝えにより会員を集めたという。クラブの知名度を上げ、会員増強を図るため、この夏祭りでもアンケート調査を行っている、という。

●薄谷いきいきクラブの事業

①役員会：毎月開催（随時）・参加10名②婦人部：偶数月に開催・参加20名③グラウンド・ゴルフ部：毎週水、木開催・参加11名④カラオケ部：毎月・参加15名⑤薄谷自治会との共催夏祭り⑥友愛活動（施設慰問）⑦その他：武里地区連合会、春日部市いきいきクラブ連合会との連携、体育祭・講演会等への参加

●今後の活動について

①そらまめ体操（20分）：毎月第３木曜日。春日部市役所の指導を得て、普及を図りたい。②食事会（サロン）：男性が料理を作り、女性たちに振舞いたい。会員の中に民生委員もいるので、地域の連携を深め、閉じこもりを防ぐため、通い場づくりとして、食事会を多く開催したい。③グラウンド・ゴルフ等：会員増強を図りたい。

●これからの在り方

クラブのPRのため、回覧で食事会の誘いや活動内容を掲載していく。誰でも参加できる。また、クチコミだけでなく、直接、活動に参加してもらいクラブの内容を理解してもらう。今後積極的に１人暮らしの会員や高齢夫婦世帯の方に声かけ（友愛活動）をしていきたい。

外河原（そとがわら）ユーモアクラブ（越谷市）

誕生会での若がえり

外河原ユーモアクラブの前身は、会長の成り手が無く一時休会していたが、当該地区自治会長の推薦を受けた森美千夫会長（70歳）が平成27年４月にクラブを復活させた。会員数は33名（男性８名、女性25名）、平均年齢は70歳。

東武線・北越谷駅の東側、旧日光街道沿いの東大沢にある当クラブは、戦後開けた住宅街で、地元外河原自治会の会館はクラブの活動拠点になっている。

●誕生会

取材当日は、外河原自治会館に於いて誕生会が開催されており、参加者は会員の他、地域住民、地域包括支援センター「おおさわ」の主任介護支援専門員、看護師もおられました。当クラブは、地域包括支援センターとの連携を図り、今後の高齢化を見据えた対策を講じられているように見受けられる。

誕生会では参加者にお弁当が供され、カラオケで歌ったり、踊りを披露したりして楽しみ、結びにビンゴゲームで賞品を頂く楽しい一日でした。我々取材陣も、誕生会に参加させて頂き、お弁当をご馳走になり、楽しんだ。この誕生会で会員の皆様は若がえりが出来た。

●外河原ユーモアクラブの活動

①自治会館での活動：カラオケ、踊り、詩吟、ワナゲ、ビンゴゲーム等
②屋外活動：ラジオ体操（８月、子供会）、社会奉仕活動（清掃作業）、花いっぱい運動、市の防災訓練参加
③越老連関係：新年会、素人演芸会、囲碁将棋大会等

●これからのクラブ

会員数が少ないので、会員増を図りたい。そのためには、地元自治会と協力し、カラオケクラブ等行事には自治会の高齢者をお誘いし、顔と顔がふれあうようなお付き合いをしたい。また、希望があればグラウンド・ゴルフ部も創りたいと、森会長は言われた。

これからの暮らしをもっと快適に、上質で、心地よい毎日をあなたに

聖蹟プライムコート東大宮 『住宅型有料老人ホーム』（介護付併設）

医療法人財団　聖蹟会が経営母体　－介護まで安心の充実体制－

いつまでも「あなたらしい」毎日を

建物はホテルのような高級感あふれる設備と厳重なセキュリティを備え、介護付有料老人ホーム、内科クリニック、介護老人保健施設が併設されています。シニアの方が安心して豊かな第二の人生を歩んでいただくために、元気な時はもちろん、病気の時や介護が必要になった時にも細やかなサービスを提供しています。お食事はホーム直営の厨房で専任の管理栄養士監修のもと地場の新鮮野菜をふんだんに取り込んでいます。

食事付き見学会開催　完全予約制　参加費無料

JR 宇都宮線「東大宮」駅より無料シャトルバスにて送迎有

見学会日程
新春食事付見学会開催
1/18(木)　1/19(金)　1/20(土)　1/21(日)
1/25(木)　1/26(金)　1/27(土)　1/28(日)
通常月　毎月第３(木)(金)(土)開催

資料請求 お問い合わせ　0120-151-628 〈受付時間　9:00～17:00〉

聖蹟プライムコート東大宮　検索

所在地　埼玉県さいたま市見沼区春野2-10-25
交通　JR 宇都宮線「東大宮」駅からバス 10 分「アーバンみらい春野図書館前」下車、徒歩１分

【施設概要】●類型／住宅型有料老人ホーム●入居条件／入居時自立・要支援・要介護●居室総数／151 室（4階～10階）●間取り／1K～3LDK●占有面積／39.16㎡～83.33㎡●建築構造／鉄筋コンクリート造地上 10 階建●居住区分／全室個室●居室の権利形態／利用権方式●利用料金の支払い方式／選択方式●介護保険／住宅サービス利用可●その他／提携ホーム移行型（介護付有料老人ホーム聖蹟プライムケアコート東大宮）●事業主体・運営／株式会社フォーブロブス

新設・復活クラブで会員増強した単位クラブの事例

脚折北部シニアクラブ（鶴ヶ島市）

通える場所に老人クラブを発足

●発足した年月日と理由

脚折地域は１丁目～６丁目と広いが老人クラブは全体で１つであった。脚折北部より加入していた会員４名は、活動場所が約２㎞も離れており、80歳以上になると歩いての参加が困難になった。幸いにも脚折北部には自治会館があり、そこで地元の自治会長、高齢者の福祉に関心のある人、会員４名が発起人となって「脚折北部シニアクラブ（高篠勇夫会長79歳・会員：男性12名、女性21名計33名）」が、平成27年11月に設立された。

●現在の組織と会員数

役員は会長（庶務担当）、副会長（会計担当）、副会長（事業担当）と相談役の４名で運営している。会員は、事業に参加すると、必ず１役を担うので役員は４名で充分。平成29年度の会員数は男性13名、女性26名、計39名。６名の増加となっている。

●事業計画は会員のアンケートを基にたて、役員が手渡し配布

事業が屋外に偏らない様に「健康づくり」「趣味、文化、レクリエーション」「学習活動」「社会奉仕活動」と幅広い分野に計画している。事業が決定すれば、役員４名が手分けして、全会員に毎月の事業の案内を１人ずつ手渡しで行っているので、会員とのコミュニケーションは充分図られている。

●年間のクラブの事業

①講話５回　②健康体操、週１回　③グラウンド・ゴルフ、２回　④ワイワイウドン打ち　⑤餅つき大会　⑥ハイキング、紅葉狩　⑦芋煮会等

●会員増強の為に、特に力を入れたこと

役員と会員のコミュニケーションを良く取ること。会員は１人１役として、お客様ではなく、各自が出来ることを担当し、クラブの役にたっているという自信を持たせること。

●クラブの今後のあり方について

高篠会長は「①会の中に知り合いがいること。②活動を伝える情報があること。③参加者同士が話し合いの機会や場づくりをしていること。④このクラブに参加してよかった、為になったと思えるように役員が汗をかけば、自ずから会員は増えると思う」と語った。

蔵根っ子クラブ（川越市）

若年層に魅力あるクラブに変身して復活

●休止・解散した年月日と理由。

平成26年３月古谷支部の３クラブの内２クラブが、役員の高齢化で継続不能となり解散した。それに伴い古谷支部が市老連を脱退。

なお、当クラブは解散はしないが、市老連主催の事業に参加出来ず活動が沈滞し、クラブの存続に危機感を抱いた。

●再加入までの取り組みと年月日

役員の高齢化でのクラブの解散は絶対避けるべきと対策を役員会で検討。①若年層に向き合う姿勢をつくる　②趣味の共通した人達を集める　③常に仲間意識をもつを決定。平成27年４月に古谷支部の蔵根っ子クラブ（会長本木春男77歳、男子50名、女子34名、合計84名）で市老連に再加入した。

●クラブの組織について

①役員　正副会長、会計、新人指導の各１名、班長10名。

②組織　愛好会、交流会、グラウンド・ゴルフ部、ゴルフ部、健康体操クラブ、フラダンス部等。

●年間の事業について

①グラウンド・ゴルフ（練習：週２回、大会：年３回、世代間交流大会、地域内の他クラブとの交流大会：年６回、GG 協会認定大会）　②ゴルフ（大会：年３回）　③健康づくり体操（毎月：２回）　④フラダンス　⑤新年会、忘年会、暑気払い、親睦旅行、敬老会等。

●会員増強の為に、特に力を入れたこと

クラブを解散や消滅からまもる為には「若年層の会員を増強する以外は無し」と役員間で意志統一をした。対策として「新しくゴルフクラブを設立」「地域で健康で明るく安心して暮らせる魅力あるクラブにする」を決定。若年層の入会を促すため、毎週（土、日曜日）に60歳代のゴルフ愛好家のお宅を、２ヶ月間継続してドアコールを実施。その結果10名の新規加入があった。

●クラブの今後のあり方について

本木会長は「会員の高齢化に対処する為に、若年層の会員の増加を図り、クラブ活動を活性化して魅力あるクラブにしたい」と語られた。

故人様の旅立ちとともに衣類やお布団等をご供養いたします。

セレモニーの ご供養品（衣類・布団 他） 回収供養サービス

故人様がお使いになられていた衣類やお布団を弊社が回収し、提携神社にてお祓いご供養の後、ご供養品処理させていただきます。

ご供養品回収供養サービスの流れ　1.まずは0120-41-1147にお電話をください。※24時間365日対応しております。 → 2.ご供養品収納袋のお渡し → 3.ご供養品収納袋の回収 ※ご自宅まで回収にお伺いいたします。

料金	ご供養品収納袋1袋	セレモニー会員様　20,000円（税別） セレモニー非会員様　22,000円（税別）

料金にはご供養品収納袋１枚、回収一時保管費、合同供養祭費、ご供養品処理費が含まれます。ご供養品の回収供養サービスの取り扱いは弊社提携先のスタッフが行います。上記以外にも、遺品の整理やお仏壇、神棚のお祓いご供養、ハウスクリーニング等々も承ります。まずお見積りをさせていただきますのでご遠慮なくご相談ください。※埼玉県にお住いの方に限ります。

●衣類や布団以外に収納できるもの／写真、アルバム、お香典袋、書類、書籍、ぬいぐるみ、人形（ガラスケースや金属類は除く）
●収納できないもの／医療系・医薬品・衛生用品、火気類、なまもの

お問い合わせ・お申し込みは　セレモニー　0120-41-1147　セレモニー で 検索　www.sougi.info

新設・復活クラブで会員増強した単位クラブの事例

コスモ与野ガーデンシティ・シニアクラブ（さいたま市中央区）

自治会活動から老人クラブ活動に！

このマンションは平成12年竣工。壱番館・弐番館・参番館の３棟。総戸数196戸。平成25年５月にマンション独自の自治会を創立。自治会行事に高齢者も参加しやすい行事もたくさん盛り込もうと考え、区の高齢介護課へ老人活動について相談をしたところ、老人クラブの設立のアドバイスを受け、トントン拍子に老人クラブの設立となり、平成28年11月に設立総会を行いました。中鉢智晴（なかばちともはる）会長、青木信也副会長、山田道子副会長、大道信也（だいどうしんや）副会長、永松美子監査の執行体制でスタート。４月１日現在の会員構成は、60歳未満11名、60歳代24名、70歳代17名、80・90歳代２名、賛助会員12名、計66名で活動をしています。

●活動は前例にこだわらない

発足したばかりなので、前例がなく、ともかく「やってみよう」が合言葉です。毎月の誕生会、茶話会、散策、暑気払い、敬老会・・・。今は試行錯誤中なのでドンドン行事をやっています。例えば29年２月に実施した大宮第二公園の「観梅と散策」は現地集合・現地解散で、主催側にも参加側にも軽負担でできました。参加者同士での互助精神も醸成できました。29年６月のマジックショーは、集会室で一般に開放して開催。子供から大人までが思った以上に参加。好評を博しました。

●自治会と活動は運動

公園清掃、防災訓練など自治会にも老人クラブも積極的に参加しています。共催化できるものは参加垣根をなくして試行しています。

マジックショー
子供たちも見に来てくれました

●年会費は無し

誰でもいつでも会に参加しやすくするため、会費は徴収していません。自治会からの助成金と市（区）からの補助金を使用しつつ、行事の都度に参加者に費用を負担していただいています。敬老会は一般的には、豪華なお弁当を主催側が準備しますが、75歳以下はお弁当代を負担してもらいます。会場もファミレスを活用。

●これからドンドン育て

マンションの特性は、仲間同士が非常に接近して暮らしていることです。また、年齢も近い者が多く、「自治会だ」「老人クラブだ」と言い張っても無駄が生じるだけです。若い世代と老人世代の溝をつくらず自然体で活動を続けたいと考えています。「マンションだから」を強みに。

向原宿舎（むこうはらしゅくしゃ）いきいきクラブ（上尾市）

行事は参加者みんなが主役

筋肉質の長身。白のＴシャツに「メタボ」と書かれた人が上野禎（ただし）会長（75歳）。

７月29日(土)は老人クラブメンバーの活躍の場「夏祭り」です。子供神輿はもちろん老人クラブが製作。

子供が楽なように軽量化を徹底。模擬店は、本職にもまさる「やきとり」「ぶっかけうどん」「焼きそば」「かき氷」など。子供たちが大喜び。老人クラブの仲間が地域行事には積極的に参加しています。

現在の会員数は28名。クラブの活動は毎日行われています。アッピー体操、卓球、麻雀、カラオケなど。アッピー体操は予防介護用に上尾市で開発されたものです。年間スケジュールは集会室に掲示されています。参加者で運営することが基本なので、口（くち）の体操、指の体操など色々な役割担当の順番も数カ月先まで決められています。活動は親団体だった向原地区と両方のクラブに参加するので大忙し。ほぼ毎日集会室に行けば何かを実施しています。まさにサロンも兼ねています。年間行事のイベントは、一泊旅行。今年は18名が参加。

また、適宜行う埼玉県内の「道の駅」探訪も人気があります。

季節ごとに変化する地元野菜の購入が楽しみです。

●会員を増やせる機会到来

向原地区は510戸を超える世帯数があり、向原宿舎が分離した経緯があります。

定年を迎えたり、後期高齢者に仲間入しそうな仲間が大勢います。

ここは自治体と老人クラブの連携が特色となっています。

①団地に住んで居る。
②老人クラブと自治会の敷居が低い。
③子育て世代との交流が普段着で実践されている。

これらを活かし、次期リーダーとなる仲間に徐々にバトンタッチしていきます。雨もすっかりと止み、踊りが始まりました。

みなさん盛り上がって下さい。

代行による散骨から、ご親族一同で故人様を送る感動のプランまで

散骨代行プラン 90,000円(+消費税)
●粉骨料込み　●乗船及び日時指定はできません
●散骨式の様子を撮影してお渡しいたします

プライベートプラン 150,000円(+消費税)
●粉骨料込み　●2名様まで乗船できます
●当社指定日時からの選択が可能です
●他のご遺族も乗船する合同葬となります

家族プラン 310,000円(+消費税)
●粉骨料込み　●6名様まで乗船できます
●他のご遺族も乗船する合同葬となります
●当社指定日時からの選択が可能です(指定日時以外の乗船は、オプションとなります)

航行の安全確保のため、天候などにより出航を見合わせ、散骨日を延期させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

これからのご葬儀は「くらべて選ぶ」時代です®

CEREMONY セレモニー

事前見積 ご相談 無料

フリーダイヤル 0120-41-1147

海洋散骨 で 検索

www.kaiyosankotsu.com

新設・復活クラブで会員増強した単位クラブの事例

岡部健康クラブ（深谷市）

地域をまたいでクラブ新生

①「健康クラブ」の指とまれ

深谷市老連の岡部地区には19地区あるが、８地区には老人クラブがない。高齢者の中には、クラブの人々が、健康維持の活動を楽しくやり、奉仕活動で地域に貢献してるのを見て、クラブが欲しいという意見が強かった。

そこで、平成27年度、地域をまたぐかたちで、老人クラブをたち上げることができた。

②窮余の一策の会長選び

クラブの名称は“会員の健康を願って”「岡部健康クラブ」。さて、人は集まったが問題は会長の選任。万策つきるころ、窮余の提案がなされた。単位クラブの会長をはなれていた、地区連合会長にクラブの会長をお願いすることになった。

③クラブの現況

◆クラブの現況

会員は男性15名、女性31名。

年齢別では60歳代　13名、70歳代　26名、80歳以上　７名と、８割以上が80歳未満と若さあふれるクラブである。

◆クラブの組織

中山保会長（80歳）、会長のもとに、地域が離れているので、６名の連絡員をおいている。

◆事業について

深谷市老人クラブ連合会及び、深谷市老連岡部地区老連の行う、グラウンド・ゴルフ、ワナゲ、ゲートボール、マグダーツに出場している他に、ゴルフ、ハイキングなども取り入れている。

④会員増強を目指して

(1)　クラブの存在を地区全体に周知し、新しい会員の入会を促す。
(2)　会員30名を確保した地区については、独立を図る。
(3)　老人クラブは絶えず高齢化という問題を抱えているので、常時会員増強に心掛ける。
(4)　ともすればマンネリ化しやすい行事や事業に新しい発想や方法を取り入れて行く。
(5)　クラブがその目的を達成するには、事業遂行の核になれる人材が必要。会員増強と両輪で幹部の育成を図る。

新生玉井明星会（熊谷市）

やはり欲しい老人クラブ！

1　誕生会と暑気払い

平成29年８月４日(金)熊谷市老人福祉センター江南荘。集まったのは熊谷市新生玉井明星会の会員たちである。

10時、34名の出席者が着席すると、１月～６月の誕生日の32名に、記念品が贈られ、会長が「お祝いの言葉」を述べる。

☆暑気払い

11時、料理が並び、アルコール類も用意されて、今度は暑気払いになる。

2　クラブの再生

実はこの熊谷市玉井明星会、諸般の理由でいったん解散している。解散してしまった明星会では、約20名がグラウンド・ゴルフをやっていた。グラウンド・ゴルフ愛好会の規約には、明星会に加入していないと試合はもちろん練習にも出場資格がなく、他に何の楽しみもなくなってしまうので、平成27年度にクラブを再生しようということで名称を変えて新生玉井明星会とした。

3　クラブの現状

現在クラブは井上弘会長（79歳）のもと、男性16名、女性34名で構成され、年齢別では60歳代10名、70歳代19名、80歳代21名の構成となっている。

4　事業について

公民館や小学校行事への参加、児童の下校見守り、グラウンドの除草、自治会と協力して道路側溝の芝桜の手入れ、友愛訪問、教養講座の開催、研修旅行、カラオケ交流会、グラウンド・ゴルフ大会、などを行っている。

それらの中で、自治会と協同で行う毎月第３土曜日の芝桜の手入れには、毎回34～35名が参加し、地域と一体となった活動となっている。

5　会員増強のための力点

会員については、80歳以上の会員が40%を占めている。「若い血を入れることが老人クラブにとって最も大切」と考えれば、若い方に絶えず声かけを行い、入会を促す必要がある。

6　クラブの将来像

老人クラブの事業というと、とかくマンネリ化しやすい。催物を多く、だれでもいつでも集まれる場をつくり、「入会してよかった」と思われるクラブにしたい。

そのためにも活気あるイベントづくりに心掛けたい。

大好評！日帰りバスツアー第14弾

話題の　天皇陛下が愛した

地下博物館と塩原御用邸で過ごす

ふれあい旅情

出発日 平成30年4月5日(木)・12日(木)

第1班 5日(木) 浦和・川口・春日部・越谷地区

第2班 12日(木) 大宮・所沢地区

※出発地は変更する場合がございます。

旅行代金　一般参加 消費税含む 7,000円　互助会会員様 消費税含む 5,000円

※定員になり次第締切らさせていただきます
※料金はバス代・昼食代・入場料・保険代を含んでいます。
※当日の集合場所等につきましては、参加者の方に改めてご連絡いたします。

当日の観光ルート

出発 埼玉県各地 ➡（東北道）➡ 宇都宮IC ➡ 大谷石資料館見学 ➡ お菓子の城工場見学／那須ハートランド(昼食) ➡ もみじ谷大吊橋散策 ➡ 天皇の間公園見学 ➡ 塩原もの語り館／紅の吊橋散策 ➡ 塩原IC ➡ 埼玉県各地 到着 ※渋滞により行程が変わる場合があります。

ツアーお申し込み・お問合せ先 ※受付は1月8日(金)からの開始になります

ツーリスト浦和 ☎048-834-0077 平日10:30～18:30（火曜日定休日）

Ceremony セレモニー

株式会社セレモニー　〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-4-13　☎048-822-6446(代)

(旅行企画・実施)近畿日本ツーリスト㈱一般社団法人日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業1944号 東京都千代田区神田1-7-8

ホームページもご参照ください。www.ceremony.jp

県老連活動紹介

健康づくり大学

市町村老連会長研修会

スポーツ大会

社交ダンス大会

編 集 後 記

この特別号は５回目の発行となります。今回は「新設・復活クラブから学ぶ会員増強」をテーマにし、シニアにエールを送る雑誌「エール」の編集長である植松紀子先生に依頼して、『会員増強の提案』～７つの提案で組織の活性化～（２・３ページ参照）の作成に多大なるご協力を賜わり厚く感謝申し上げます。また、４ページからは新設・復活クラブで会員増強の素晴しい活動をしている単位クラブを８事例紹介させていただきました。本誌発行にあたり取材のご協力をいただいた各クラブの皆様、厚く御礼申し上げます。

掲載クラブに共通していたことは、地域との連携（地域包括支援センター、自治会、民生・児童委員等）とクラブ活動の楽しさで笑顔が絶えないことが取材をしていて印象的でした。この特別号を参考にして新設・復活クラブで会員増強のヒントにご活用いただき、会員増強運動で老人クラブ活動の活性化に取り組んで頂きますようお願い申し上げます。

本年も株式会社セレモニーの本社より多額のご協賛を賜り、ありがとうございました。株式会社セレモニー社長志賀司様には深く感謝の意を表します。

広報委員長　成田準之助

県老連広報委員会委員